

市内の小・中学校のトイレへの生理用品配備を求める請願

令和5年6月29日

青森市議会議長 奈良岡 隆 様

青森市大野若宮 165-19
新日本婦人の会青森支部
支部長 北 田 文 子

紹介議員 蛭 名 和 子
赤 平 勇 人

(請願の趣旨)

私たち新日本婦人の会は、女性の要求実現と子どもの幸せ、平和と暮らしの向上を目指し、全国で運動している国連NGOの女性団体である。

学校の女子トイレに生理用品を備え置く取組が全国で広がっている。県内でも五所川原市・弘前市・平川市・野辺地町などですでに実施されている。

学校のトイレへの生理用品の設置は、もともとは経済的な困窮や家庭環境で生理用品を買えない子どものために、と議論が始まったが、どんな子どもでも安心して学校に通えるように生理用品がトイレに設置されることが重要とされてきている。青森市は「保健室で配付しているのでトイレへの設置は必要ない」としてきた。もちろん保健室でまとまった量の生理用品を手渡せるようにしておくことも必要と考えるが、生理用品を学校に持ってくるのを忘れたときや急に必要になったときなどのためにも、各トイレに生理用品を設置することは、子どもたちが安心して学校に通えるためにも必要なことだと考える。また、生理用品を保健室に取りに来させることで家庭に困難を抱えている子どもを把握するというのであれば、生理のない男子の困難は把握できにくいことになる。家庭などの困難を抱える子どもへのアプローチは別な方法を考えるべきだ。

令和3年第2回青森市議会定例会にも「生理用品の学校配布(設置)を求める請願」を提出した際、文教経済常任委員会で「15年前にトイレに設置したことのある自治体でいたずらがあったり、不衛生だということで撤去されたという話を聞いた」という心配の声から反対する意見が出されたが、すでに実施しているいくつかの自治体の教育委員会に問い合わせたところ「今のところそういった声は上がってきていない」とのことだった。

また、すでに実施している県内や県外の自治体の状況を調べると、平川市は年間56万7600円、五所川原市は51万1000円(予備の生理用ショーツ含む)、兵庫県明石市は500万円(市立高等学校・養護学校含む)と、かかる予算はあまり大きくはないようだ。

以上のことから、以下のとおり請願する。

(請願事項)

児童・生徒が安心して通学でき、健康で衛生的な生活を保障するために、学校施設の女子トイレに返却不要の生理用品を設置すること。